

[宮崎演習林研究室]その他

柿原, 道喜
九州大学農学部附属演習林 : 助手

財津, 秀雄
九州大学農学部附属演習林 : 助手

中島, 誠
九州大学農学部附属演習林 : 助手

<https://doi.org/10.15017/1456234>

出版情報 : 演習林研究経過報告. 昭和40年度, pp.83-84, 1966. 九州大学農学部附属演習林
バージョン :
権利関係 :



第2表 モミ林の成長量 (0.0625 ha)

プロット No	昭和35年 4月						枯 損 木					
	本 数			材 積 (m³)			本 数			材 積 (m³)		
	モミ	広	計	モミ	広	計	モミ	広	計	モミ	広	計
1	87 (1392)	16 (256)	103 (1648)	19057 (3045)	1960 (314)	21017 (3363)	2	3 (48)	5 (80)	0042 (07)	0068 (11)	0110 (18)
2	54 (864)	76 (1216)	130 (2080)	12418 (1987)	6237 (998)	18655 (2965)	0 (0)	5 (80)	5 (80)	0 (0)	0308 (49)	0308 (49)

昭和40年 10月						生 長 量 (m³)			生 長 率 (%)		
本 数			材 積 (m³)			生 長 量 (m³)			生 長 率 (%)		
モミ	広	計	モミ	広	計	モミ	広	計	モミ	広	計
85 (1360)	13 (208)	98 (1568)	24262 (3882)	2116 (339)	26378 (422.1)	5205 (833)	0.156 (25)	5361 (858)	4.1	1.3	3.9
54 (864)	71 (1,136)	125 (2000)	15041 (2407)	6582 (1053)	21623 (3460)	2623 (420)	0.345 (55)	2968 (475)	3.2	0.9	2.5

- 注1. ()はha当り
 2. 生長率はプレスラー式を用いた。
 3. ツガは少ないので、モミに含めた。

IV そ の 他

柿 原 道 喜・財 津 秀 雄
 中 島 誠

1 利用率の調査

材積利用率の正確な把握は、直営素材生産事業において欠くことのできないものである。そこで、昭和40年度の伐採現場にて、利用率の調査を実施した。この場合の利用率は、樹幹および枝条から採材された素材材積に対する樹幹材積の比率である。利用率は、樹種、樹幹形、径級、枝条の多少などによって異なるものであり、また、調査本数は193本であるので、さらに検討を加える必要があるが、今回の調査結果から得られた樹種別平均利用率を示すと次のとおりである。(資料編利用率調査表参照)

アカマツ88.6%、モミ77.5%、ツガ71.6%、サクラ類91.1%、ブナ104.4%、カエデ類87.2%、シデ82.3%、その他広78.0%

ii 下刈用除草剤施用試験

下刈作業の省力化の一つの試みとして、除草剤の施用試験を行なった。除草剤としては三井化学KK製のグラスレス1号(MCAを主剤とする薬剤)を用い、5林区内の昭和36年植栽のマツ、スギ、ヒノキ造林地において実施した。その結果、樹種別被害は、ヒノキ>スギ>マツの順であり、草生に対する影響は、ササ、禾本科、灌木に対して少く、その他の草類に対しては著しい効果のあることが認められた。

iii スギ、クローンの集植

本演習林におけるスギの適品種を知るための一資料として、九州林木育種場より、下記に示す20クローン(1クローン10本宛)の分譲を受け、矢立苗圃内に植栽した。

県阿蘇1， 県白杵12 県佐伯1 同6， 県竹田3， 同4， 同6， 同10， 同12， 県三重1， 県四日市3， 県日田1， 同3， 同5， 県東白杵4， 同6， 同10， 同13， 県西白杵1， 日向署2。